

復刻デザインバスの運転について

開業当時の「青いつばめ」と試験車「赤いつばめ」の2種類の塗色タイプ
の高速バスを運行します。

○「青いつばめ」 1964年10月 国鉄バスが高速バスを初めて開業した時のもの

戦前、戦後の省営バスは、ねずみ色を基調としていましたが、国鉄となり、クリーム色を主体に、窓周辺やスカートを一般地向けはあずき色、暖地向けは青みどり色を配していました。1960年代には、青色系、赤色系のデザインも採用され、高速バス開業にあたり青色系に統一されました。前頭部には国鉄を象徴する「動輪エンブレム」、側面には「」を表記、このカラーは国鉄バスから JR バス関東のカラーに継承されています。



【当時】



【復刻デザインバス】

【当面の運行区間と時刻】※都合により車両は変更となる場合がございます。

- 東京駅～佐野新都市B T (毎日：東京駅発 10:40、18:40 佐野新都市B T 発 7:35、14:35)
- 東京駅～河口湖駅 (毎日：東京駅発 7:20 河口湖駅 13:30)
- 東京駅・新宿駅～会津若松 (毎日：東京駅発 22:20 新宿駅発 23:00 会津若松駅発 8:30)
- 東京駅～鹿島神宮 (毎日：東京駅発 18:50 鹿島神宮発 9:40)

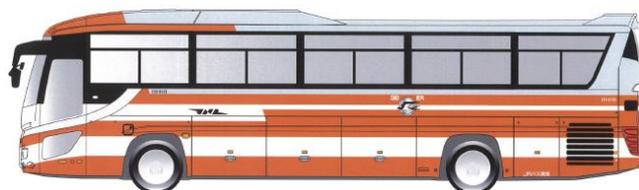
○「赤いつばめ」 1961年～1964年 高速バス開発のための試験車

高速バスは、従来の路線・貸切バスでは出来ない高速連続走行に耐えうる必要があるため、当時の国鉄と自動車メーカーが共同で開発、高速走行試験を行いました。当時は高速試験走行する箇所として、福島県白河にあった国鉄バス専用道路（現在も当社の白棚線専用道路として使用）で行いました。

このバスは、試験専用車両であり、カラーを含めて営業運転は行いませんでしたが、現在の高速バスの基礎となった車両です。



【当時】



【復刻デザインバス】

【運行区間】

東京駅～館山駅間での運行を終え、現在準備をいたしております。次の運行区間につきましては決まり次第お知らせします。